

研究課題名	肝癌術後成績向上を目指した新たな危険因子の検索 後ろ向き多施設研究
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科消化器移植外科学 教授 大段秀樹
研究期間	2020年6月9日(倫理委員会承認後)～ 2035年3月31日
対象者	1991年1月から2025年3月の間に広島大学病院を含む研究協力施設において施行された肝切除術の全症例でE-26「広島臨床腫瘍外科研究グループ(Hiroshima Surgical Study Group of Clinical Oncology: HiSCO)による肝癌共通データベース事業」において登録された患者さん
意義・目的	肝切除術は手術手技の向上やエネルギーデバイスの開発に伴いその成績は向上しています。しかし、侵襲の大きい手術では、術後合併症は未だ多いのが現状です。周術期及び長期成績向上が課題となっています。本研究の目的は、多施設共同で肝臓切除後の予後因子、術後合併症の新たな危険因子を明らかにすることです。
方法	広島大学病院を含む研究協力施設で肝臓移植を行った患者のデータベース(E-26「広島臨床腫瘍外科研究グループ(Hiroshima Surgical Study Group of Clinical Oncology: HiSCO)による肝癌共通データベース事業」にて収集されたデータベース)から得られるデータを収集します。肝臓切除後の生存に関与する因子、合併症に関与する因子を後方視的に解析します。研究の実施について、広島大学疫学研究倫理審査委員会の承認を受け、広島大学理事より実施の許可を受けています。本研究は運営費交付金により実施し、本研究に関わる利益相反はありません。
対象者に生じる負担並びに予測されるリスク及び利益	本研究に参加いただく事で直接の利益はありませんが、将来の肝切除術成績向上や外科医療の向上に役立つ可能性があります。診療で得られた情報を用いますので、追加の負担やリスクはありません。
研究協力機関	県立広島病院、尾道総合病院、安佐市民病院、呉医療センター、中国労災病院、東広島医療センター、広島西医療センター
試料・情報の管理責任者	広島大学大学院 医系科学研究科 消化器・移植外科学 教授 大段 秀樹
個人情報保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。

問合せ・苦情等の窓口

小林 剛

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5222

医系科学研究科消化器・移植外科学 職名 特任講師 小林 剛

研究機関：広島大学